熱田貴著「真実はワインの中に―熱田貴のワイン航海日誌―」飛鳥出版 2000 年 8 月 25 日刊を読む

ボン・ヴォヤージュ、はじめに

１．最近、ピアニストの横山幸雄さんと一緒にトークショーをした。横山さんはまだ若いのだけれど、これがまた無類のワイン好きで、食卓にワインを欠かす日は一日もない、という人だ。

２．その彼がある時ふっと思い立って、「まあ、たまにはワインを飲むのを一日くらいやめてみよう」と心に決め、レストランでも、ワインの代わりに水を飲みながら前菜を食べたり、ステーキを食べたりしてみたそうなのだが、彼曰く、
「その料理の味気ないことといったら！　熱田さん。ワインのない人生なんて、なんてつまらないんでしょう！」

３．まったく横山さんのおっしゃることは、もっともなことだと思う。

４．確かに、ワインというのは、料理の味を引き立て、料理もまたワインの味を引き立て、どちらが主役というわけではないけれど、切っても切れないパートナー関係にある酒で、それが他の酒とは決定的に違うところである。たとえばウィスキーは、酒の味が強すぎて料理の味が台無しになってしまうし、日本酒は肴を選ぶ。ビールを飲みながらではあまり料理は食べられないし、焼酎は料理の味にあまり影響しない飲み物だろう。

５．ところがワインという酒は、それがあることで、一日の食事をおいしくいただくことができるという、まことに魔法の水といってもいい飲み物だ。食事がおいしく食べられるということは、ある意味で、人間にとってこれ以上の満足はないだろう。そしてそれがひいては、心と身体の健康につながる。これは私のワイン人生 45 年の経験上、確かに言えることだと思う。

６．そんなワインの魅力にとりつかれて、さまざまな国のワインとおいしいものを食べたくて、世界中を旅してきた。さまざまな人と出会い、さまざまな土地の風に吹かれ、さまざまなことが見えてきた。

７．中でも、強く実感したのは、「ワインは、自然と人が造るものだ」ということであった。言い代えれば、ワインを味わってみればその土地とその土地に暮らす人の姿が浮かび上がってくる、ということでもある。

８．それを端的に表す言葉がチリにある。

９．チリという国はセニョリータ・ボニータ（べっぴんさん）が多くて、それが国の誇りなのだそうだ。それはすごくすばらしいことだけれど、じゃあ、「誇りはそれだけなの？」と尋ねると、彼らはにやりと笑ってこんな答えを返してくれる。

「チリの誇りは三つの『W』。ひとつは『Weather』＝天候、ふたつは『Wine』＝ワイン、もうひとつが『Woman』＝女性だ」

10. 気候が良い国はワインがおいしく、女性が美しい。結局これは、自然と人とワインというものが、密接に関わりをもっているということを現しているのだと思う。

11. と同時に、人間、良い気候のもと、美しい人とおいしいワインを飲んだら、それ以上、何を望む必要がある？　と、強く思う。そしてそれは、この本のテーマでもある。

12. 初めに言っておきたいのだけれど、本書はいわゆるワインの本ではない。

13. では何の本なのか、と尋ねられると、申しわけないけれど自分ではよくわからない。私の半生――そのほとんどは、ワインを飲みたい、ワインを知りたいという情熱をエネルギーにして、地球上のあちこちをぐるぐる回ってきた記録――が綴られている。いわば、私のワイン人生の航海日誌のようなもの、と言えるかもしれない。

14. そこには、ワインの選び方とか、飲み方とか、そんな「すぐに役立つ」ような知識はほとんど書かれていない。だから、そうした知識が欲しい人は、本屋に行けばもっと「すぐに役立つ」優れた書物がたくさん出ているから、そちらを参考にしてほしい。

15. だけど私は思うのだけれど、書物だけで得た知識を頭に詰め込んで、高いワインや料理を飲みに行っても、そのワインや料理の味が良くなる、ということはないんじゃないだろうか。

16. 料理とワインが切っても切れない関係にあるように、ワインはそのワインを育んだ自然と、育てた人と密接に結びついている。そのすべてを味わう時に、ワインと料理は格別の光を放ち、人生は豊かに、楽しいものに生まれ変わるのだ。

17. この本が、そんな「豊かさと楽しさ」に満ちた本になるといい。そんなことを考えながら作った。この本を読んだ人が、なんだか無性においしいワインと料理が食べたくなって、本をぱたんと閉じて、小さなカバンひとつ携えて、電車や飛行機に飛び乗って、旅に出てくれたら、それにまさる喜びはない。

18. 願わくば、あなたが旅先で出会うワインの中――太陽の光に透かした液体の輝きや、グラスの中に漂う香り、そして口に含んだ時に広がる味わいの中に、人生の真実が見つからんことを。

19. In Vino Veritas.
真実は、ワインの中にある。

P.6 ～ 8

＜コメント＞

日本ソムリエ協会会長の熱田貴(あつたたかし)氏のワイン賛歌。ワイン好きの方も、あまりワインをたしなまない方も、思わずワインが飲みたくなってしまうような文章。ワインは各地域、地域の文化そのもの。真実はワインの中にある。その通りだと思う。

― 2016 年 6 月 28 日(火)　林　明夫記―